

表 『石見外記』所収「大御國環海私圖」の記載の違い

写本の系統		A系統		B系統	
番号	場所	日本国際問題研究所	東京大学総合図書館	浜田市立図書館	石見地方未刊資料研究会発行本
1	(地図の説明1行目)	サシテカトハラズトイヘトモ	サシテカトハラズトイヘトモ	サシテカハラズトイヘトモ	サシテカハラズトイヘトモ
2	(高田屋嘉兵衛の説明1行目)	高田屋嘉兵衛力商船ハ	高田屋嘉兵衛力船ハ	高田屋嘉兵衛方商船ハ	高田屋嘉兵衛力商船ハ
3	(高田屋嘉兵衛の説明1行目)	朝鮮海ニ出テ	朝鮮海ニ出テ	朝鮮海ニ出テ	朝鮮海ニ出テ
4	(高田屋嘉兵衛の説明2行目)	下ノ関ヲ出帆シテ	下ノ関ヲ出帆シテ	下関ヲ出帆シテ	下ノ関ヲ出帆シテ
5	(高田屋嘉兵衛の説明3行目)	ハリナガシニ	ハリナガシニ	ハリナガシ	ハリナカシ
6	(高田屋嘉兵衛の説明3行目)	松竹二島ノ間ニ出テ	松竹二島ノ間ニ出テ	松竹二島ノ間ニ出テ	松竹二島ノ間ニ出テ
7	(高田屋嘉兵衛の説明4行目)	乗リシニハアラサルカ	乗リシニハアラサルカ	乗リシニハアラズ	乗リシニハアラズ
8	カムチャツカ	カンサスカ 魯西亞ニ属ス	カンサスカ 魯西亞ニ属ス	カンサツカ 魯西亞ニ属ス	カンサスカ 魯西亞ニ属ス
9	樺太	カラウト奥エゾ	カラウト奥エゾ	カラウト奥エゾ	カラウト奥エゾ
10	松前大島、小島	記載あり	記載あり	記載あり	—
11	三厩(みんまや)?(津軽海峡)	三早シホアリ	三早シホアリ	—	—
12	津軽	ツカル	ツカル	ツカル	ソカル
13	富士山	フジ	フジ	フジ	—(山の記載のみ)
14	七島(伊豆七島)の記載	記載あり	記載あり	記載あり	—
15	黒瀬川(黒潮)の記載	記載あり	記載あり	記載あり	—
16	大御國(日本)の読み	オホミクニ	オホミクニ	—	—
17	京都	京都	京都	京都	京東
18	大坂	大坂	大坂	大阪	大坂
19	隠岐の注記	北極出地三十五度	北極出地三十五度	北極出地州五度	北極出地三十五度
20	宮島	ミヤシマ	ミヤジマ	ミヤシマ	ミヤシマ
21	宍岐の注記	自平戸至此十三リ	自平戸至此十三リ	—	自平戸至此十三リ
22	対馬の注記	自宍岐至此四十八リ	自宍岐至此四十八リ	—	自宍岐至此四十八リ
23	筑羅が沖	チクラ沖	チクラ沖	—	—
24	五島の注記	自長崎至此四十里	自長崎至此四十里	自長崎此至四十里	自長崎至此四十里
25	雌島(女島)の読み	メ	メ	—	メ
26	雌島(女島)の注記	自五島至此四十八リ	自五島至此四十八リ	自五島至此三十八里	自五島至此四十八里
27	普陀落の注記	自雌島至此三十リ	自雌島至此三十リ	自雌島至此三リ	自雌島至此三リ
28	普陀落の注記のうち雌島の読み	—	—	—	メ
29	蘇州	蘇州	蘇州	—	蘇州
30	中国東部	支那地方	支那地方	—	支那地
31	寧波	寧波 古へ明州	寧波 古へ明州	—	寧波 古へ明州
32	寧波の注記	自普陀落至此百里而近	自普陀落至此百里而近	—	—
33	釜山海	フサンカイ	フサンカイ	—	—
34	釜山海の注記	自対馬至四十八リ	自対馬至四十八リ	—	—
35	鴨緑江の読み	アリナレ	アリナレ	—	アリナレ
36	建州の注記	属支那	属支那	支那属州	属支那
37	(寛政3年の注記3行目)	ソノ日ニサル事アリ	ソノ日ニサル事アリ	ソノ日ニ去事アリ	ソノ日ニ去事アリ
38	(寛政3年の注記6行目)	海國ニハアラカジメ	海國ニハアラカジメ	海國ニハアラジメ	海國ニハアラカジメ
39	(寛政3年の注記7行目)	術ヲナサズンハアルベカラズ	術ヲナサズンハアルベカラズ	術ヲナサズンハアルベカラズ	術ヲナサズンハアルベカラズ
40	(地図の注記1行目)	此ノ圖	此ノ圖	此圖	此圖
41	(地図の注記1行目)	九州二島及ヒ	九州二島及ヒ	九州二島及ビ	九州二島及ビ
42	(地図の注記2行目)1)	薄遊漫載ニヨレリ	薄遊漫載ニヨレリ	薄遊漫載ニヨリ	薄遊漫載ニヨリ
43	(地図の注記8行目)	大抵八九里ハカリモ	大抵八九里ハカリモ	大抵八九里許モ	大抵八九里ハカリモ

—: 記載なし

黄色は、A系統とB系統の相違点を指す。

1) 正しくは、文化11(1814)年刊行の『薄遊漫載』(三宅橘園)を指す。